



ランサーエボリューションXのボディは“守り”ではない、“攻め”なのだ。

一般的な例えとして、ボディは縁の下の力持ちなどと表現される。どちらかと言えば“守り”のイメージだ。しかしランサーエボリューションXにとってボディは、積極的に“攻め”るものなのだ。S-AWC、4B11 MIVEC エンジン、高剛性サスペンションなどの性能をフルに発揮させるためには、強靱な骨格が必要になる。そのためにボディ構造を一新したうえで、全身にわたって積極的な補強を実施。極限までボディ剛性を追求した先代ランサーエボリューションIX MRから、曲げ剛性、ねじり剛性ともに、大幅に向上させた事実が、その“攻め”の高さを物語っている。そのうえで、乗り心地の向上や、振動・騒音の低減など、新世代にふさわしい高い質感と快適性も獲得した。一方、ボディのパッケージングやディメンジョンにおいても、快適な室内空間と運動性能の両立を図った。ワイドトレッドとフロントショートオーバーハングのプロポーション。そしてエンジンプロックやエンジンフード、ルーフパネルなどのアルミ素材の採用で、低重心化と軽量化を徹底追求。旋回性能を研ぎすませている。もちろんエアロダイナミクスも、風洞実験を繰り返し、ボディの上面・側面・下面とエンジンルーム内部のエアフローを高次元に解析。より効果的なダウンフォースと冷却性能を獲得しながら、高速走行時の空気抵抗とリフト量の低減を両立した。まさにランサーエボリューションXのボディは、走りのために全身で“攻め”ているのだ。